

久徳周辺地区都市再生整備計画
事後評価資料
(原案の公表)

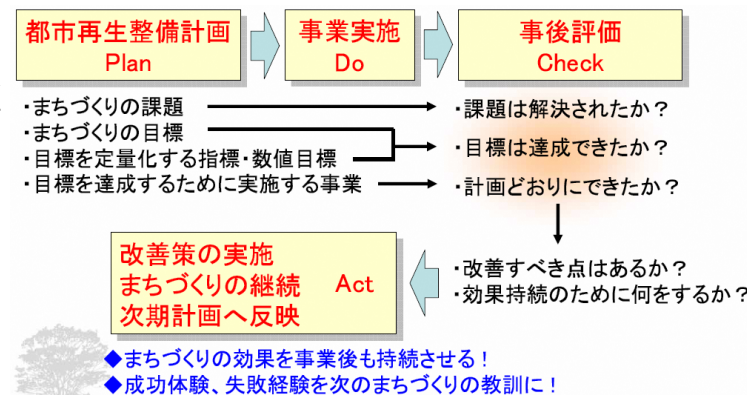
令和6年3月
多賀町 企画課

久徳周辺地区 都市再生整備計画事後評価

1. 事後評価の概要

(1) 事後評価の位置づけ

事後評価はPDCAサイクルによる事業評価制度の一環として実施されるもので、その後のまちづくりに活かすための作業。



(2) 事後評価の目的

事業がもたらした成果等を客観的に診断して、今後のまちづくりを適正な方向に導くこと、及び事業の成果を住民にわかりやすく説明することを目的とする。

(3) 事後評価の内容

① まちづくりの目標の達成状況等の確認！

まちづくりの目標の達成状況、および実施過程の検証を行う。

② 今後のまちづくり方策の検討！

まちづくりの目標の達成状況を踏まえ、事業効果の発現要因を整理し、今後のまちづくり方策を検討する。

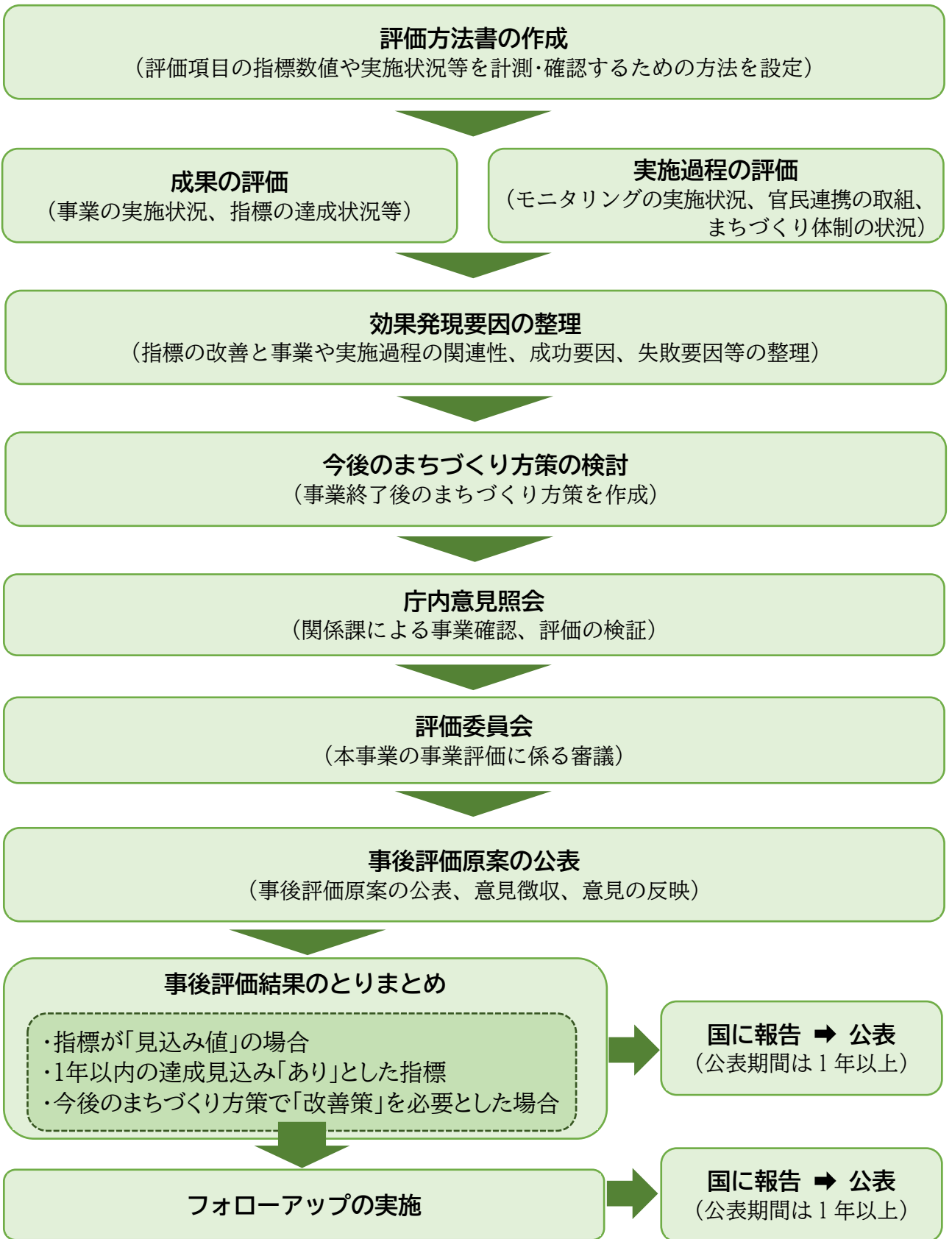
③ 事後評価のチェック！

事後評価の透明性・合理性・客観性を担保するために、評価結果を町民に公表し、意見を適切に反映すると共に、学識経験者を含む第三者で構成される「評価委員会」を開催し、その審議を経る。

(4) 事後評価委員会の目的

- ① 事後評価等が適切に遂行されているか確認および意見をいただく。
- ② 今後のまちづくり方策等について意見をいただく。

(5) 事後評価の実施フロー



2. 久徳周辺地区のまちづくりの事業概要

◇まちづくりの経緯及び現状

(まちづくりの現状)

- 多賀町では、多賀大社を核とした観光産業を中心とする観光ゾーン、工業団地の造成により日本を代表する企業の進出を図ってきた産業ゾーン、住宅地として誘導する居住ゾーン、さらにそれらを取り巻く農林業を営む既存集落を形成させ、第1次、2次、3次産業による均衡のとれた行政運営を行ってきました。
- しかしながら、観光産業は従事者の高齢化に伴う衰退の進行や、工業産業は長期的かつ安定的な工業立地が期待できず、農林業では専業形態から兼業化が顕著となっており、人口減少も影響して町全体の活力が低下しつつあります。このことから、町の魅力をさらに向上させ、観光するなら多賀町へ、企業進出するなら多賀町へ、永住するなら多賀町へ、という新たな人の流れを創り出す必要があります。

(まちづくりの経緯)

- 平成28年度から多賀地区都市再生整備計画事業により、観光区域の再生や工業区域の魅力向に向け多賀SAに接続するスマートインターチェンジの整備を推進しています。また、点在する周辺集落のアクセス性向上を目指して町道の整備を推進し、本計画区域においては、行政および民間による積極的な宅地開発を推進した結果、新規住宅着工戸数が増加しました。これに比例して社会増による人口増加の傾向に転じています。
- 一方、新たな住民を迎えるにあたり、「多賀町の生涯学習のあり方検討委員会」を組織し、コミュニティ醸成に向けたまちづくりの拠点とする施設のあり方をまとめた「多賀町生涯学習推進基本計画」を策定しました。また、平成26年度からは町民を中心として、まちづくりや災害時の拠点施設としての整備に係る検討委員会を立ち上げ、施設の規模や機能について検討・取りまとめを行ってきました。

◇課 題

区域の発展充実を図ると共に、それぞれの区域が区域内での交流だけで終わることなく、区域間にまたがる重層的な交流を深め、また、観光客や在勤者等の多様な人々を巻き込んだまちづくり・ひとづくりを実現させ、多賀町の魅力を発信する必要があります。

- ①新たな移住者のコミュニティが希薄となっています。
- ②既存のコミュニティのエリアが限定的かつ画一的であり、これからの時代に即した新たなコミュニティの醸成に繋がっていません。
- ③住民の居住地に対する愛着心が乏しく、定住化が図れていません。
- ④情報発信力が不足しています。
- ⑤災害時拠点避難所としての機能を有する施設が人口集中地にありません。

◇目標

課題を踏まえて、本整備計画の目標を以下のように定めました。

大目標： 人が集い交流し絆を深める場を活用した安心で活力あるまちづくり

- ①定住・移住等による社会人口増をめざし、地域の活性化を図る。
- ②生き生きとした豊かな生活を実現し、自主・自律的な地域活動を推進する。
- ③安心で安全な地域社会を実現する。

◇計画期間

・平成29年度～令和4年度

◇目標を定量化する指標

指標	単位	定義	計測方法	従前値 (H27)	目標値 (R4)
地域交流センターの利用者数 (多賀中央公民館 多賀 結いの森)	人/年	地域交流センターの利用者数	令和4年度末時点の地域交流センターの利用者数を確認する	16,002	21,500
社会増による人口増加	人/年	転入と転出による人口増減	令和4年度末時点の人口増加数を住民基本台帳より算出する	27	35
避難訓練の参加者数	人/年	久徳区の避難訓練の参加者数	令和4年度の避難訓練参加者数を確認する	25	50

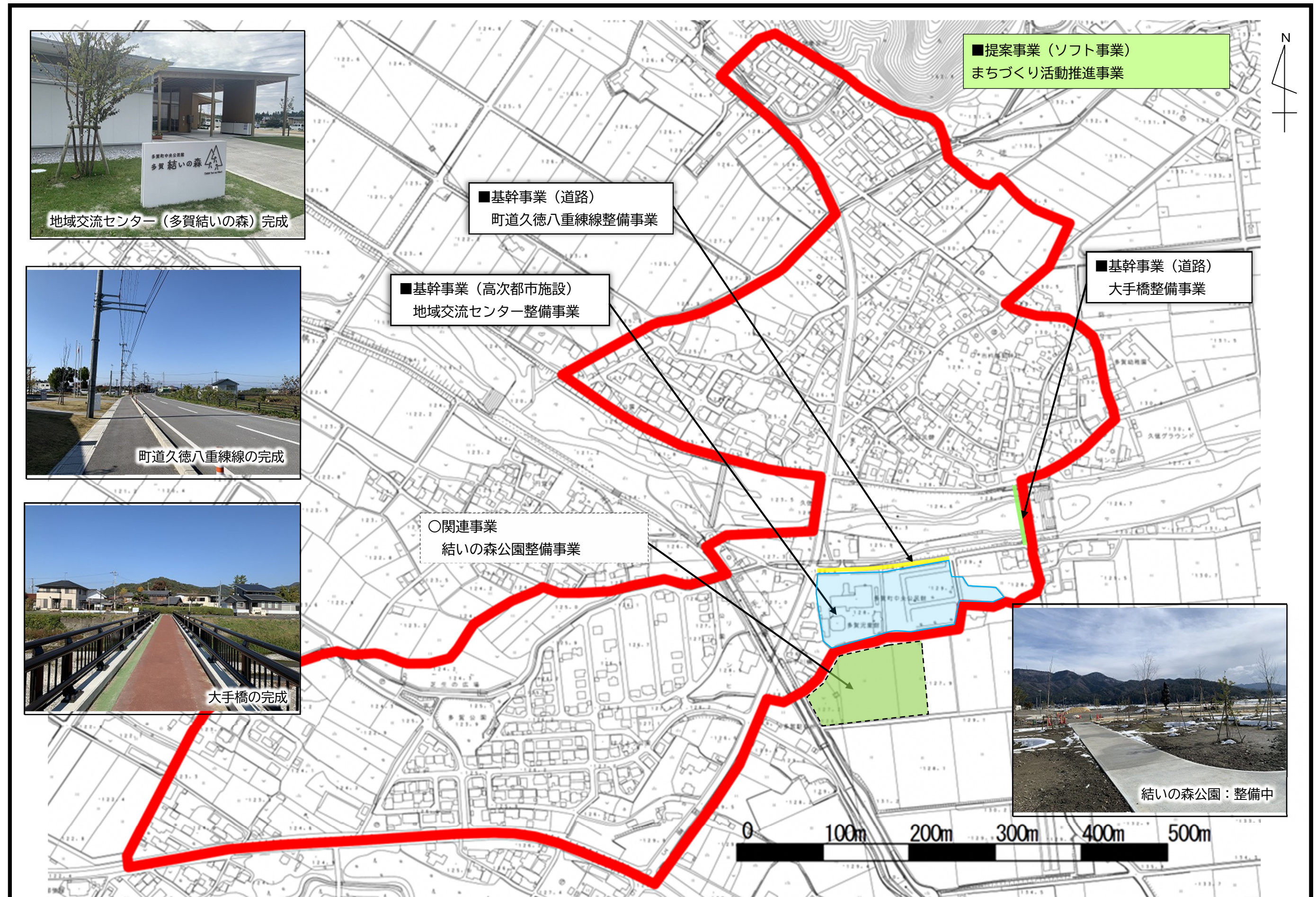
◇目標を定量化する指標と事業の関係

目標を定量化する指標、数値目標(目標値)がまちづくりの課題や整備方針、実施する事業は、関連している必要があります。以下にそれらの関連性を整理します。

整備方針	対応 関係	事業名・箇所名	目標を定量化する指標		
			指標1	指標2	指標3
			センター利用者数	社会増による人口増加	避難訓練参加者数
・地域交流センターの整備を行い、地域コミュニティの活性化を図る。同時に災害時アクセス経路を確保する。 ・交流センターアクセス道路の拡幅により誰もが安心して施設を訪問できるようにする。 ・地域交流センターに愛着を持ってもらえるよう、施設整備前から利用促進に対する取り組みを始める		【この整備計画に基づき整備した事業】			
		① 町道久徳八重練線整備事業	○	×	△
		② 大手橋整備事業	○	×	△
		③ 地域交流センター整備事業	○	△	△
		④ まちづくり活動推進事業	○	△	△
		【この整備計画と関連する他事業】			
		⑤ 結いの森公園整備事業	○	△	×
		⑥ 住宅地整備事業	△	○	×

上記表の「○」は事業と指標が直接的に関連するもの 「△」は間接的に関連するもの 「×」は直接的・間接的にも関連しないものを表しています。

◇事業の位置

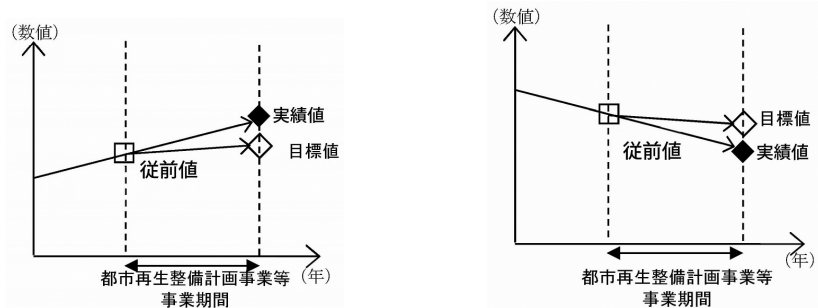
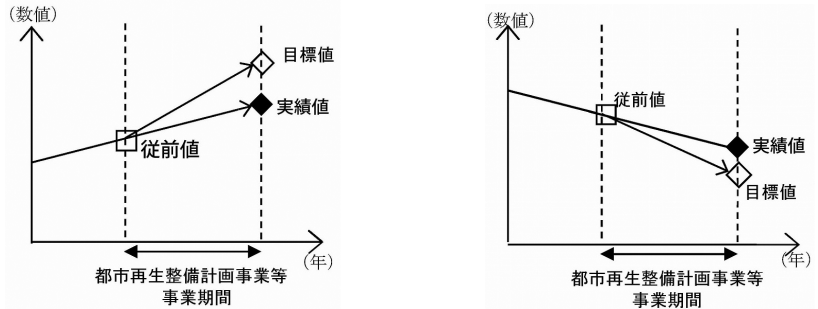
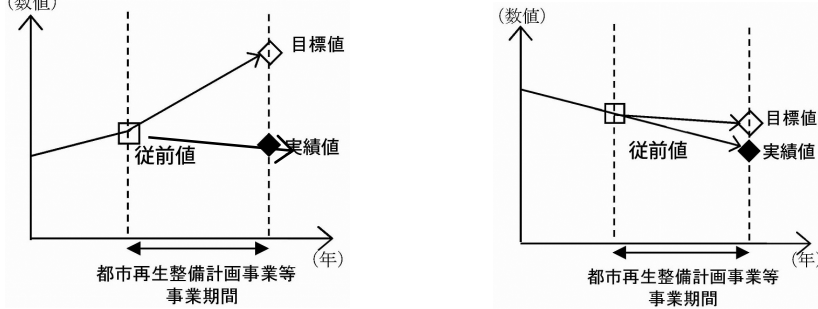


3. 数値指標の結果について

【目標指標の達成状況について】

指 標	従前値	目標値	実績値	目標達成度
指標1 地域交流センターの利用者数(人/年)	16,002 (H27)	21,500 (R4)	17,553 (確定値)	△
指標2 社会増による人口増加(人/年)	27 (H27)	35 (R4)	-10 (確定値)	×
指標3 避難訓練の参加者数(人/年)	25 (H27)	50 (R4)	154 (確定値)	○

【達成度について】

達成度の記号	達成度の考え方とイメージ
達成度「○」 となる場合	実績値が目標値を上回った場合、達成度は「○」 
達成度「△」 となる場合	実績値が目標値を超えない場合において、実績値が従前値を上回っている場合、達成度は「△」 
達成度「×」 となる場合	実績値が目標値及び従前値を下回っている場合、達成度は「×」 

指標 1：地域交流センターの利用者数

従前値 (H27 年度末)	目標値 (R4 年度末)	評価値 (R5. 3. 31)	目標達成度	1 年以内の 目標達成見込み
16,002 (人/年)	21,500 (人/年)	17,553 (人/年)	△	なし

対応する事業： 地域交流センター整備事業（多賀中央公民館 多賀結いの森）、
町道久徳八重練線整備事業、大手橋整備事業、まちづくり活動支援事業

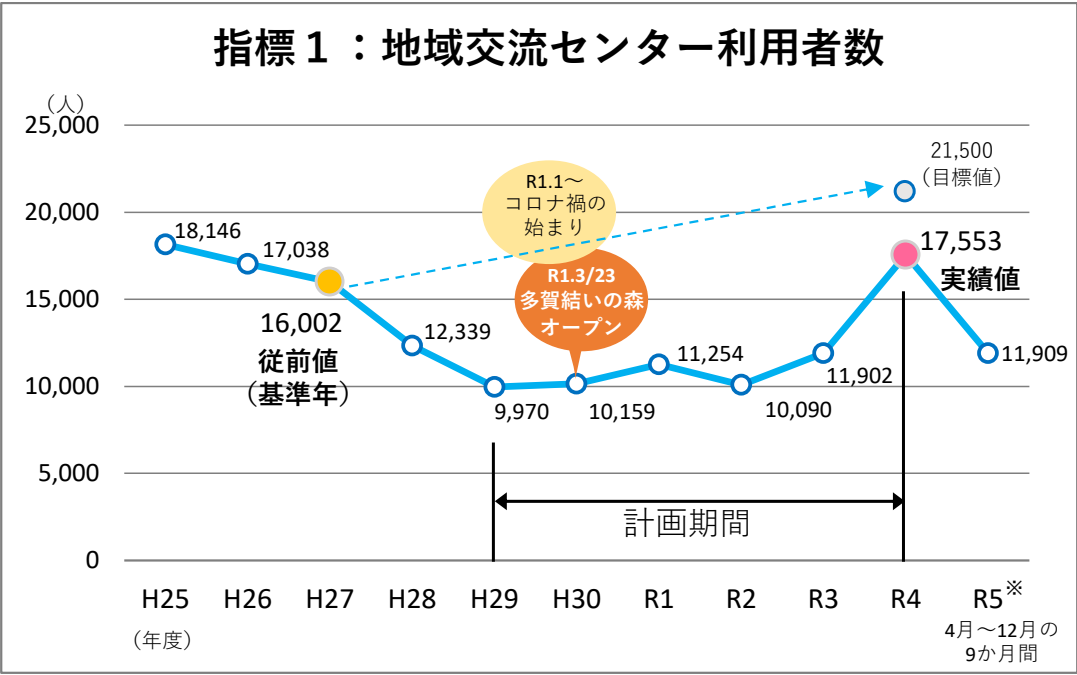
対応する関連事業： 結の森公園整備事業、住宅地整備事業

指標の定義： 地域交流センターの利用者数

計測方法： 令和 4 年度末時点の地域交流センターの利用者数を確認する

【目標達成度に関する検証】

- ・中央公民館の老朽化や耐震化対策、市民ニーズが多様化した生涯学習機能の強化を図るため、中央公民館の建替え、町道整備、まちづくり活動支援を行いました。結果としての評価値は 17,553 人となり目標値は達成できませんでした。
- ・一方で、評価値は従前値を上回っており改善傾向が見られることから、目標達成度は「△」とします。
- ・令和 5 年 4 月～12 月末時点の利用者数は 11,909 人となっており、残りの 3 か月間で目標値の 21,500 人を超えることは難しいと考えられるため、1 年以内の目標達成見込みを「なし」とします。



指標 2：社会増による人口増加

従前値 (H2 年度末)	目標値 (R4 年度末)	評価値 (R5. 3. 31)	目標達成度	1 年以内の 目標達成見込み
27 (人/年)	35 (人/年)	-10 (人/年)	×	なし

対応する事業： 地域交流センター整備事業（多賀中央公民館 多賀結いの森）、まちづくり活動支援事業
対応する関連事業： 結の森公園整備事業、住宅地整備事業
指標の定義： 転入による人口増（社会増※）
※社会増とは、引越し等に出ていく（転出）数より、引越し等に入ってくる（転入）数が多い状態のことをいいます。
計測方法： 令和 4 年度末時点の転入及び転出数を住民基本台帳から算出する

【目標達成度に関する検証】

- ・地区内人口の増加に関しては、住宅地開発による影響が直接的に大きく関わっています。地域交流センター整備やまちづくり活動支援は、多賀町に移住・定住する魅力の1つとして間接的な効果となります。
- ・評価時点となる令和4年度末(令和5年3月31日時点)では、転入数よりも転出数が上回ったため、目標を達成できませんでした。近年の傾向を見ると人口増減(社会増減)を繰り返していますが、直近の令和2年度と3年度を見ると基準年を下回っているため、目標達成度は「×」とします。
- ・令和5年度は4月～12月までの間に社会増減として30人増えています。過年度の状況から判断すると、1月から3月までの3カ月間で 6 人以上の社会増を見込むのは難しいことから、1 年以内の目標達成見込みを「なし」とします。←1 月末 or2月末時点の最新データを確認してから判断を検討

社会増減	4月～12月	1月～3月	合計
H21年度 2009	-24	-16	-40
H22年度 2010	-69	1	-68
H23年度 2011	-7	16	9
H24年度 2012	-23	-29	-52
H25年度 2013	26	7	33
H26年度 2014	-20	-18	-38
H27年度 2015	28	-1	27
H28年度 2016	-1	-14	-15
H29年度 2017	21	4	25
H30年度 2018	51	14	65
H31年度 2019	103	15	118
R2年度 2020	-8	-8	-16
R3年度 2021	10	1	11
R4年度 2022	-4	-6	-10
R5年度 2023	30	—	30

表- 年度別の社会増減の推移

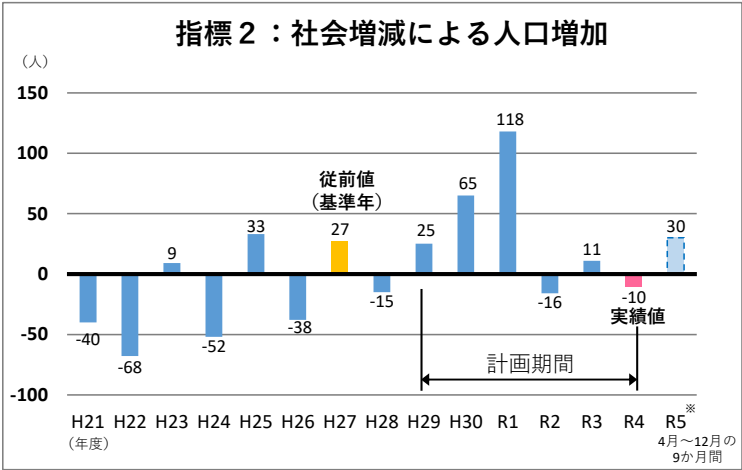


図- 社会増減による人口増加の推移

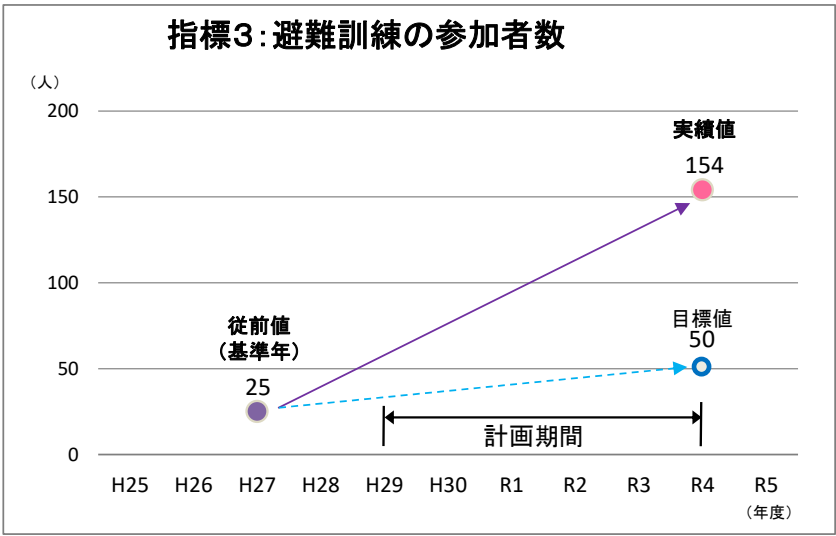
指標 3：避難訓練の参加者数

従前値 (H27 年度末)	目標値 (R4 年度末)	評価値 (R5. 3. 31)	目標達成度	1 年以内の 目標達成見込み
25 (人/年)	50 (人/年)	154 (人/年)	○	—

対応する事業： 地域交流センター整備事業（多賀中央公民館 多賀結いの森）、
町道久徳八重練線整備事業、大手橋整備事業、まちづくり活動支援事業
指標の定義： 久徳区における避難訓練参加者数
計測方法： 令和 4 年度の避難訓練参加者数を久徳区から聞き取り算出する

【目標達成度に関する検証】

- ・地域交流センターの建設に併せ、災害時の避難所としての役割を十分に果たせるように、調理室やシャワー室、多目的ホールをはじめとする機能を備えました。
- ・また、地域交流センターへ安全に安心してアクセスするために、町道久徳八重練線の拡幅による歩道設置や車道の2車線化、大手橋の改修を行い、災害時だけでなく日常的な生活道路として整備を行いました。
- ・まちづくり活動支援事業では、多賀語ろう会の活動の一環として防災学習が実施されています。
- ・このような取組の結果、防災への意識向上がみられたことや、地域のコミュニティが深まったことで目標を達成することができました。目標達成度は「○」とします。



4. 定性的な効果発現について

資料の4 Pと5 Pでは数値や数量で定量的に事業の効果を評価しましたが、ここでは、定量的に評価できない事業効果についてまとめます。

① 地域の方からカロムのボードが寄贈されました

湖東地域一帯に伝わる むかしあそび「カロム」の手作りボードが地域交流センター(多賀結いの森)に寄贈されました。このボードゲームを通じて町内外の人の交流が深まることが期待されています。

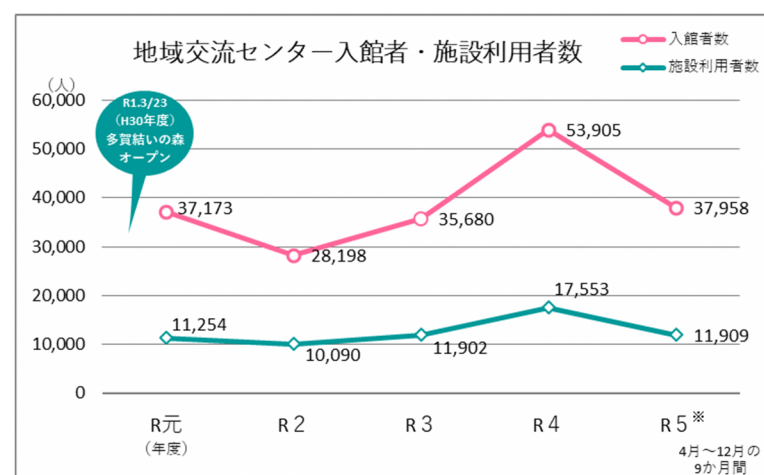


- ★多賀町では木材の利用促進や木のある暮らしを大切にしています。
- ★地域交流センターでは木育の一環として、期間限定で木の玩具を貸出しました。
- ★レバーを回すとカエルの鳴き声(木の音♪)が聞こえます。

② 地域交流センター(多賀結いの森)に来館される方が増えました

地域交流センター(多賀結いの森)には誰でも自由に使えるフリースペースが設けられています。また、自由に館内を見学することもできるため、多くの方に来館していただいています。

旧中央公民館では来館者数を計測していなかったため比較は難しいですが、当施設に用事のない方の来館も見受けられ、気軽に訪れる施設になっていることが分かります。



★図書コーナーの一角



★木のキャスター付きで移動しやすい工夫がされています

5. 実施過程の評価

【モニタリングの実施状況、官民連携による取組の実施状況】

※モニタリング…… 計画期間中に事業の進捗状況や成果の発現状況を把握して、その後の事業の進め方の参考とするための点検作業のことです。

地域交流センター整備事業に関して、モニタリングの実施や官民連携の取組がありました。その取組みは平成24年度からの一連のながれがありますので、計画期間以前からの内容を併せて整理します。

①多賀町の生涯学習のあり方を考える準備会 (平成24年7月～平成25年6月)

- 生涯学習課内での準備会として、生涯学習の現状把握や新公民館建設に向けて検討しました。

②多賀町生涯学習のあり方検討委員会

- まちづくりの観点から地域の活性化・地域文化の振興の拠点整備を前提とした生涯学習のあり方について、町民の意見と専門的な見識を反映させた中・長期的な計画案を検討しました。
- 平成26年12月に「多賀町生涯学習推進基本計画」を策定しました。

③多賀町中央公民館整備検討委員会 (平成26年8月～平成27年3月)

- 多賀町生涯学習推進基本計画に位置付けられた「学びの拠点施設の整備」の実現に向けて、新施設の機能や規模の具体的な検討を行いました。
- 滋賀県立大学に建築の専門知識の協力を求め、町民アンケート調査や関係団体との意見交換、類似施設の視察を実施しながら議論を進めました。
- 平成27年5月に「多賀町中央公民館建設基本計画」を策定しました。

④多賀町中央公民館建設基本設計委託業務コンペ審査委員会 (平成27年5月～平成27年10月)

- 基本設計者を選定するにあたって、コンペ方式により公募を行いました。
- 全国から176者の応募があり、1次審査、公開プレゼンテーション、2次審査により最優秀者を選定しました。
- 1次審査で選定された5者の公開プレゼンテーションには、町内外から148名が来場されました。



⑤新中央公民館の建設についての学習会 (平成27年7月～平成28年12月)

- 社会教育関係職員のための学習会として、既存の社会教育施設と新公民館の関係、新公民館で取り組みたい活動等について意見交換を行いながら学びを深めました。
- その後、一般行政職員、設計者、地域住民、市民活動団体、大学生などのメンバーが加わり、官民協働による学習会へと発展していきました。
- 平成28年に入ると、新中央公民館の建設を進めるために、「多賀町中央公民館建設委員会」、「林業活性化検討部会」、「運営準備部会」が設置されました。

⑥多賀町中央公民館開設準備室 (平成28年5月～平成31年3月)

- 「運営準備部会」が前年度からの学習会を引き継ぐかたちで公的組織として位置づけられ、「多賀語ろう会」と称して、5月から新たに活動を進めました。
- 開館に向けた広報紙「新！公民館ができるまで」を発行し、工事の進捗状況やプレイベントPRなど、まちづくりの機運を高める取組が進められました。

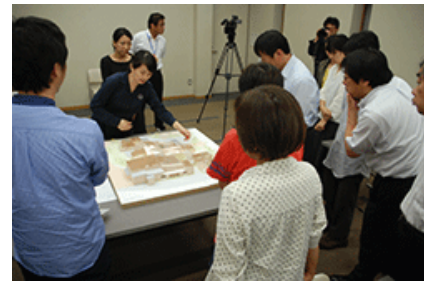
⑦（仮称）結いの森公園整備における遊具設置に係るアンケートの実施（令和4年度）

●公園にほしい遊具や設備について町民 WEB アンケートを実施し、82 人から 91 件の回答がありました。

【官民連携による取組の実施状況】

★多賀語ろう会

- ▶平成28年1月から準備を進め、5月から本格的に活動を開始しました。
- ▶平成29年11月に「ふるさと多賀の食まつり」のプレイベントを開催しました。
- ▶平成31年3月の新中央公民館「多賀結いの森」のオープニングイベントにあわせ、「多賀の食」をテーマとした食のイベントを開催しました。
- ▶多賀結いの森のオープンまでは、食部会、ものづくり部会、広報部会、例規部会の4つのテーマを基に活動を進めました。
- ▶このうち「多賀語ろう会 食部会」は独立し、文化財センターと協力して進めており、他の部会は研修を中心に活動を進めています。



★YOBISHI プロジェクト

- ▶令和元年4月から「多賀語ろう会・食部会」を「YOBISHI プロジェクト」に改名しました。活動のコンセプトは「たがのたべるをつなぐ」として、主な活動は町民有志が中心となり、多賀町文化財センターは事務局として、官民協働の活動が始まりました。
- ▶現在も活動は精力的に継続しており、郷土料理や郷土の暮らしを、体験したり映像記録として残したり、よびし通信として広く情報を発信しています。



出典（YOBISHI プロジェクト WEB サイトより）
<https://note.com/vobishitaga/n/nce73d89837c6>



【多賀のことが好きな人の活動も広がっています】

多賀町内では自主的にまちづくり活動を行っている数多くの団体の中から、以下の3つの団体による取組を紹介します。

★たがトコ実行委員会

- ▶豊かな多賀町の魅力を後世に残すため、楽しい多賀を知ってもらい、全国の多賀出身の人やゆかりある人にも、故郷への想いを考えてもらうきっかけになる活動に取り組んでいます。
- ▶令和3年11月からラジオ放送が始まり、令和4年2月に「たがトコ実行委員会」が発足しました。
- ▶ラジオ放送だけでなくフェイスブックやYouTube等のWEBサイトにて行政情報や多賀の様々な魅力を発信しています。
- ▶2023年4月からは「多賀に人が訪れ・住まう・誇りに思える町」をテーマに、さらに広く多くの人に多賀町の魅力を知ってもらうため、ラジオ放送をリニューアルしています。



出典（たがトコ実行委員会フェイスブックより）
<https://www.facebook.com/tagatoco/>



たがトコ実行委が新しい多賀町の特産品として開発した多賀そば茶＝多賀町久徳で

多賀町の魅力を発信する地域団体「たがトコ実行委員会」が、地元の新しい特産品として「多賀そば茶」を開発し、今月から販売を始めた。委員長の小島優さんは「商品を通じて多賀町に興味を持ってほしい」と話している。

★たがまちなかライブ実行委員会

- ▶音楽イベントで駅前を盛り上げようと、町内の音楽仲間三人が実行委員会を組織して「えきなかライブ」の活動が令和3年から始まりました。
- ▶ライブ活動は年間4回～5回



出典（たがまちなかライブ実行委員会フェイスブックより）
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100068609802095>



定期的に行われており、年代を問わず多くの方に出演していただき、多くの方が来場されています。

- ▶活動当初は近江鉄道多賀大社前駅のコミュニティハウスを会場にしていたましたが、令和5年度からは、会場を地域交流センター（多賀結いの森）に変更し、活動や参加者の幅が拡大しています。

★多賀まちづくりネットワーク

- ▶「文化財＝まちのたからもん」という考えと、衣・食・住・景観など、すべて根底は文化財とつながっており、この文化財を継承していくために人材を育てて協力体制を構築する場として、官民協働による組織として8月に発足しました。



出典（多賀まちづくりネットワークWEBサイトより）
<https://note.com/tagamachinet>



6. 効果発現要因の整理について

目標と指標の関連性		大目標：が集い交流し絆を深める場を活用した安心で活力あるまちづくり												
		目標１：定住・移住等による社会人口増をめざし、地域の活性化を図る		「目標１」と「指標１」は関連性があります			「目標１」と「指標２」は関連性があります							
		目標２：生き生きとした豊かな生活を実現し、自主・自律的な地域活動を推進する		「目標２」と「指標１」は関連性があります										
		目標３：安心で安全な地域社会を実現する		「目標３」と「指標１」は関連性があります			「目標３」と「指標２」は関連性があります			「目標３」と「指標３」は関連性があります				
目標達成度		○：評価値が目標値を上回った場合 △：評価値が目標値に達していないが、近年の傾向より改善している場合 ×：評価値が目標値に達しておらず、近年の傾向よりも改善が見られない場合		指標１ 地域交流センターの利用者数			指標２ 社会増による人口増加			指標３ 避難訓練の参加者数				
				△			×			○				
種別		事業名・箇所名		指標１と事業との関連性の影響度	影響度の考え方			指標２と事業との関連性の影響度	影響度の考え方			指標３と事業との関連性の貢献度	貢献度の考え方	
交付対象事業	基幹	道路：町道久徳八重練線		完成	△	・町民や役場職員等との官民連携による地域交流センター（多賀結いの森）整備により、新たな人々の交流の場が創出されました。			—	・多賀町内において住宅地整備が行われたことにより社会増が実現しました。			○	・これまでの避難訓練の実施により防災の意識は高いと思われますが、町道整備や橋梁改修により、地域防災拠点（地域交流センター（多賀結いの森））へ安全に安心して移動するための整備が間接的に効果を発揮したと思われるため貢献度は「○」とします。 ・また、多賀語ろう会における長年の取組の中において、防災に関する取組が積極的に取組まれたことが防災意識の向上に直接影響したと思われる溜め、貢献度は「◎」とします。
		道路：大手橋		完成	△	・新型コロナウィルス感染症をきっかけとした新しい生活様式として、外出抑制やイベントや催事等の行事の開催規制も緩やかになったものの、感染症への危機感も影響したため、目標達成には至りませんでした。			—	・令和4年度は社会減となりましたが、住宅地整備と併せて、地域交流センターの整備（完成）や結いの森公園の整備（工事中）が進められ、移住・定住に向けた魅力向上につながっていると思われるため、影響度は「△」とします。			○	
		高次都市施設（観光交流センター）：地域交流センター（多賀 結いの森）		完成	△				△				○	
	提案	まちづくり活動推進事業：ひとづくり・まちづくり活動の実施（多賀語ろう会）		完成	△	・しかし、近年の傾向と比べると利用者数は増加しているため、影響度は「△」とします。			△	・一方、公園整備により地域の魅力を向上させ、移住や定住へに向けた期待がありました が、工事の完成時期が遅れており、事業効果を発揮できなかった間接的な要因となったため、影響度を「×」とします。			◎	
関連	（仮称）結いの森公園整備事業		工事中	×	・一方、公園整備による来館を見込んでいましたが工事の完成時期が遅れており、事業効果を発揮できなかった間接的な要因となったため、影響度を「×」とします。			×				—		
	住宅地整備事業		完成	△				△				—		

- 指標の達成度が「○」の場合の貢献度（記号）の考え方
- ◎ 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 - 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 - △ 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 - 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない

- 指標の目標達成度が「△または×」の場合の影響度（記号）の考え方
- ×× 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった直接的な原因となった
 - × 事業が効果を発揮できず、指標の目標を達成できなかった間接的な原因となった
 - △ 目標は達成していないが、指標の改善には貢献した
 - 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない

総合所見	・官民連携による地域交流センター（多賀 結いの森）として新しく生まれ変わり4年の年月が経過しています。 ・建設に向けて取り組んでいた活動は、行政とゆるやかにつながりながら継続しています。一方、活動に関わりたいたいと思っけていても、活動の拠点となる使いやすい会場が少ないため、積極的な活動につながっていないことも考えられます。	・年度によって社会人口は増減を繰り返しています。 ・住宅地の造成や分譲等のハード整備は重要な取り組みですが、地域交流センターや都市公園の整備により子育て環境が充実したこと、田舎暮らしに利活用可能な空き家や空き地が存在することの情報発信を継続しつつ、関係人口を増やししながら移住・定住につなげることが望まれます。	・平成２８年９月に多賀町防災訓練が久徳区で開催されました。日頃から慣れ親しんでいる場所で防災訓練を行ったことから、訓練の重要性や災害への備えについて、より意識が高まったと考えられます。 ・また、多賀幼稚園を建替え幼保連携型認定保育園の整備にあたり、災害時の避難所として位置づけられることから、一層の防災意識が向上したと思われます。 ・災害発生時には訓練の効果が少しでも現れるように、引き続き災害への備えや避難訓練による防災対策が望まれます。
	・公園の供用開始後は子どもから高齢者まで、多様な人が集まるため、来園者と地域交流センターがつながる新たな取組が望まれます。 ・また、少子高齢化による人口減少が益々加速していくと同時に、地域の担い手不足も加速していくと思われることから、町民のニーズに則した新たな交流の場づくりを展開していく事が求められます。		

今後の活用・改善方針	【改善方針】	【改善方針】	【今後の活用】
	・情報発信の充実、施設申し込み方法や支払い方法の多様化、イベントや催事内容の充実等、町民が平日・休日を通して使いやすい利用環境の創出が必要です。 ・公園整備の完成後は公園を利用してもらうための取組みと併せて、相互施設の事業連携が必要です。	・自然が豊かで美しい景観（風景）の中で暮らせることをセールスポイントとすることや、子育て環境が充実していることもアピールしながら、若い世代を始めとした多様な世代の移住・定住につなげることが必要です。 ・また、空き家や空き地の情報量を拡大させ有効活用につなげることが必要です。 ・施設相互間で連携したイベント等の取組みにより関係人口を増やし、移住・定住につなげることが必要です。	・災害に対する防災意識の継続や避難訓練の継続が必要です。 ・一方、災害規模が大きくなるほど、まずは「自助」次に「共助」が重要であることを知識として理解するための学習会の開催など、訓練を繰り返すことが必要です。

7. 今後のまちづくり方策について

都市再生整備計画での課題が事業実施により、どのように変化したのか、以下にまとめました。

都市再生整備計画の課題	達成されたこと	残された課題
課題① 新たな移住者のコミュニティが希薄となっています。	・町民だけでなく町外の人も利用できる地域交流センター(多賀結いの森)が整備されました。施設内にはエントランスホールをはじめとするフリースペースが3箇所設けられ、気軽に来館できる環境が整いました。 ・地域交流センター(多賀結いの森)建設に向けて、多賀語ろう会が組織され、協働によるまちづくりの機運が高まりました。 ・地域交流センター(多賀結いの森)のささゆりホールでは「ささゆりコンサート」が年間を通じて定期的で開催され、音楽を通じたまちづくりが広がっています。 ・多賀語ろう会食部会が YOBISHI プロジェクトに改称したと同時に、新たな官民連携の活動として取組を継続しています。 ・(仮称)結いの森公園に設置する遊具について町民アンケートを実施しました。	多賀町民としての誇りやプライドを保ちながら、町全体のコミュニティ力の維持・向上させ、人口の流出抑制・新たな移住定住につなげるため、多賀結いの森をさらに利便性が高く、新たなまちづくりの拠点施設として育てていく必要があります。 ◆多賀結いの森の柔軟な施設運用 ・閉館時間が 17:00 までと早いため、夜間時間帯に予約せずにフリースペースが利用できる環境があると、市民活動の活発化が期待できます。 ◆施設利用申し込み方法の多様化 ・有料施設の受付は、日中利用の場合 60 日前から前日まで、夜間利用の場合 60 日前から 7 日前まで、予約の取消や変更は 7 日前までとなっているため、利用者の突発的な予定変更に対応できる仕組みがあると利便性が高まります。 ・電話予約は仮予約となり利用日までに窓口申請が必要となりますが、電話による受付も可能であれば利便性が高まります。 ◆支払い方法の多様化 ・現金だけでなく、近年のデジタル化を踏まえてオンライン決済が可能になるとより利便性が高まります。 ◆情報発信手段の充実 ・専用WEBサイトや、SNSによる情報発信により、まちづくりに関わる機運への醸成や、各種イベントや講座に参加しやすい環境が形成されます。
課題② 既存のコミュニティのエリアが限定的かつ画一的であり、これからの時代に即した新たなコミュニティの醸成に繋がっていません。		
課題③ 住民の居住地に対する愛着心が乏しく、定住化が図れていません。	・大手橋の改修により芹川のせせらぎや、霊仙山等の山並みを眺める視点が設けられ、多賀の自然の美しさを感じる機会が増えました。 ・多賀語ろう会の活動により、石材・林業・食文化・歴史文化等、先人から受け継がれた郷土の暮らしぶりを再発見、再認識し、多賀の素晴らしさを感じる機会が増えました。 ・民間による住宅団地の開発が行われ、町外からの転入がありました。	
課題④ 情報発信力が不足しています。	・地域に地域交流センター(多賀結いの森)のエントランスホールには、豊富な数のチラシやパンフレット等が置かれた情報コーナーが設けられ、情報の入手がしやすくなりました。	
課題⑤ 災害時拠点避難所としての機能を有する施設が人口集中地にありません。	・地域交流センター(多賀結いの森)の整備により、人口が密集している地域の災害時拠点避難所が設けられました。	・特になし
	【効果を持続させる考え方】 ・官民協働による取組をきっかけに組織された YOBISHI プロジェクト、文化財保存の観点から組織された多賀まちづくりネットワークのほか、町民による各種実行委員会と行政がゆるやかに関わり続けることが大切です。 ・また、町民と行政が連携したイベントの同時開催、庁内各所属が横断的に連携したイベントの同時開催なども必要です。 ・これらの取組は愛着心が芽生えるきっかけになるだけでなく、これまで持っていた愛着心や誇りを改めて実感する機会となるため、様々な分野との連携強化が重要です。 【想定される事業】 ・多賀町キラリとひかるまちづくり活動支援交付金 ・個性輝く自治活動補助金 ・コミュニティ助成事業 ・避難訓練の側面的支援 ・住宅地整備等への側面的支援	【課題に対する改善策の考え方】 ・多賀結いの森は、生涯学習、まちづくりの拠点施設として、また災害時拠点避難所として整備が行われたことから、まちづくりの拠点施設となるように、利用者ニーズや要望に合わせた柔軟な運営方法や、市民活動団体や周辺の施設と積極的に活動や事業連携を行っていく必要があります。 【想定される事業】 ・中央公民館専用のWEBサイト開設やSNSによる情報発信の検討 ・中央公民館の管理運営の見直し等の検討 ・役場公式SNSによる情報発信の検討